



# 宮司ぷしよ 〇〇

彦島八幡宮 宮司 ニュース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 平成二十七年 四月二十一日

◇宮司の柴田です。 月日の流れは、少し

も歩みの速度をゆるめず、四月の下旬を迎えています。 今年も、かわることなく、境内の満

開の桜を愛（め）でることが叶いました。 昨年よりも、格段に多くの花を咲かせてくれたよ

うです。 今月は、例年になく雨が多かつたようですが、つかのまの晴れ間、吹く風に潔（い

さぎよ）く、その花びらを散らす姿も、いとおしく感じさせられました。 相田みつをさんの

詩に、「うつくしいものを美しいと思えるあなたのころがうつくしい」とありますが、その

桜花が、咲きにおいて、散りゆく姿を美しいと思う心が、実は、美しいのであります。 たゆた

う（ただようという意味です）時の流れに、そのことを気づかせてくださるのも、目に見えない大自然の営みであり、神の恵みです。

◇この折節（おりふし、季節のことです）の移ろい、既刊（きかん）の宮司プレスでも、ふれたことがあります。 「仁義（じんぎ）」で成り

立っているのですが、ご存知ですか。 桜の花が、美しく、いつまでも咲いて欲しい、散

らないで欲しいと思う気持ち、散りゆく桜をい

## 緑

（じん）です。 しかし、散らなければ、新

になることができない、夏が訪れないのです。 来るべき夏のために、潔く、自らを犠牲にして

散るいとなみは、正しい定められた使命を全（まっとう）している姿でもあります。 まさに、「義」なのです。 しかもそれは、新緑の

葉を枯らす秋の訪れや、その葉を散らす冬の訪れも、また、しかりです。 「仁義」で成り立

っているのです。 ◇中世室町時代に、いわゆる、伝承芸能であった「能（のう）」を芸術、一つの道として大成

（たいせい）したのは、観阿弥世阿弥（かんあみ ぜあみ）親子でありました。 その息子で

ある世阿弥は、その芸術の指導書ともいべき、「風姿花伝書（ふうしかでんしよ）」を認（し

たため）めました。 実は、その「風姿花伝書」には、「秘すれば花 秘せずは花なかるべし」としたためられています。 初めてその言

葉に出会ったのは、学生時代のことでありまして、「秘めた多言（たげん）」という本意をわか

りかねておりました。 花は、そのもの自体が

美しいのであるから、ことさらに、多くを語る

必要がないということでもあります。 花の存在

が美しいのであり、風雪にたえしのびつつ、今年も変わることなく花を咲かせた、その花が、

すべてを語っているわけです。 また、「去年（こぞ）盛（も）りあれば 今年（ことし）は花なかるべ

きことを知るべし」ともしたためられています。 今年の「竹の子」は、全国的に「裏年」という

ことと、寒さが長引いたそうので、不作なのだそうです。 今年の境内の桜もそのように、毎年

のようにたくさんの花をつけるわけではないのです。 私どもの生活、人生にも、そのこと

があてはまるのではないのでしょうか。 いい時もあれば、そうでない時もあるわけで、大難（だ

いなん）もあり、小難（しょうなん）もあるのです。 まさしく、この「去年盛りあれば 今

年は花なかるべきことを知るべし」という言葉は、大難は小難に、小難は無難に乗り越える心

構えなのだと思います。 「秘すれば花 秘せずは花なかるべし」という言葉には、「去年

盛りあれば 今年（ことし）は花なかるべきことを知るべし」という大自然の営みを乗り越えた先、大

難小難を乗り越えた先にあるのが、「花」、つまりは、「美しさ」ということが込められている

のです。 ◇今、世界では、第四次産業革命、「インダス

リー 4.0」が起こっているそうです。 ちなみに、最初の産業革命は、十八世紀の機械物

工業の機械化です。 とかく手工業であったも

のが、省力されたわけです。その機械化も格段に進んだのが、電気による大量生産時代の二十世紀、これが第二次です。コンピュータによる自動化が進んだ西暦一九八〇年代以降が第三次産業革命です。そして、第四次は、自動化された工場が、業種を超えてネットワーク化され、国家として立地競争力を競う時代なのだそうです。第三次産業革命までは、なんとか、ついでいけそうではありますが、第四次には、おいてけぼりになりそうです。しかしながら、「不易流行」、前述した「秘すれば花 秘せずは花なかるべし」という、「感謝」の心、そして、「去年盛りあれば、今年花はなかるべきことを知るべし」という謙虚な心を忘れてはなりませんし、決して変えてはならないと思います。

◇日本人は、「長幼(ちようよう)の序(じよ)」を大切にしてきました。年少者や修業の身である人が、年長者やその道の先達(せんたつ)に、敬意をはらう、敬うというしきたり、礼儀であります。中国の戦国春秋時代(せんごくしゆんじゆうじだい)、紀元前五世紀のことでありますが、呉という国の全盛期を築いた「こりよ」という王は、「礼とは、天地、人の欠いてはならぬ方式、無礼を重ねれば、天の時・地の理からずれてゆき、人のなかで立てなくなる」と説きました。人とのしきたりである「長幼の序」、さらに、大自然とのしきたり、

神様やご先祖様とのしきたりである「神明(しんめい)の序」をそこなわないうようにしたいものです。折り目正しい季節の移ろいに秘められた「仁義」に、子どもの生活もあやかりつつ、「天」なる神様・御先祖さま、「地」なる大自然、地域社会に感謝しながら、お陰様でという謙虚な気持ちで、「人」とつながる、調和のとれた生活でありたいものです。ご自愛をお祈り申し上げます。

◇三月の祭典行事報告

▼月次祭 \*二月一日、十五日

▼海上自衛隊敷設艦「むろと」参拝

\*三月九日

▼福浦金刀比羅宮月次祭 \*三月十日

▼恵比寿神社例祭 \*三月十五日

※山口県漁協南風泊支店の守護神である

恵比寿神社の例祭

▼朝粥会 \*三月二十一日

▼春季祖例祭 \*三月二十一日

※家の趣旨が、神道の方々の合同の霊(みたま)祭 \*終了後、彦島内の神社めぐりバスアイクを実施

◇三月の宮司の行事会議等活動報告

▼八幡宮関係団体

◇維蘇志会三月勉強例会 \*三月十四日

◇敬神婦人会役員会 \*三月二十二日

◇維蘇志会会計監査、役員会 \*三月三十一日

▼山口県神社庁、同下関支部関係

◇神宮大麻都市頒布向上計画対策委員会 \*三月二日

◇神社庁教学研究委員会 \*三月十一日

◇神宮大麻頒布終了祭、推進委員会 \*三月十一日

◇下関支部研修会 \*三月十七日

◇下関支部施設慰問 \*三月二十六日

◇教化講師会講師養成講習会 \*三月二十七日

◇山口県神社庁駐在教誨師会

◆集合教誨(しゅうごうきょうかい)

\*三月九日(男子)

\*三月二十三日(女子)

▼西ローターリークラブ

◇例会 \*三月四日、十八日、二十五日

◇四十五周年記念事業実行委員会

\*三月二十七日

▼地元迫町自治会活動

◇DIG(地域防災図上訓練)参加

\*三月四日

迫町組合長会議 \*三月二十五日

▼その他

◇西山小六年生感謝の会参加

\*三月六日

◇社会福祉法人あす評議員会 \*三月十九日

◇西山小卒業式参列 \*三月二十日

◇社会福祉法人松美会評議員会

\*三月二十四日